

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971300353
法人名	医療法人社団 富士厚生会
事業所名	グループホームあんず
所在地	〒 401-0501 電話番号 0555-63-2828

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年9月13日

【情報提供票より】平成19年8月14日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤	7人 非常勤 4人 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 償却の有無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1200 円			

(4) 利用者の概要 平成19年8月14日 現在

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	59 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山梨赤十字病院 山中湖村診療所 山中湖村診療所歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年8月30日

雄大な富士山を目の前に、閑静な場所に建つこの施設は、老健に隣接したグループホームである。平屋建てで窓も多く、開放的な印象を受けた。隣接の老健には常時医師や看護師がおり、医療体制も整っている。事業所内の職員研修も充実している。また、富士を一望できる展望大浴場があり、ホームの利用者も利用できるようになっていて、隣接の利点が随所で活かされている。人数的にも利用者の状態にもゆとりがあり、できることは自分でしょうという利用者の意欲が感じられた。開設して3年目、開設時からの職員を中心に、ホームとして順調に動いている感がある。利用者同士が和気あいあいとしており、職員も家族のよう温かいかわりをしているのが印象的であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を受け、職員全員で改善点について話し合いを行った。理念についてわかりやすく馴染みやすいものという指摘を受け、現在検討中である。評価を受けたことで様々な面で気づき生まれ、日頃のサービスに新鮮な気持ちで取り組むことができるようになった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員に配り記入してもらった。それをもとに話し合いを行い、日頃のサービスを振り返った。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 第1回の運営推進会議を終えたところである。ホームの様子や活動内容を知ってもらうことができた。今後も積極的にホームの様子を伝えていくとともに、地域とのかかわりを増やしていけるよう働きかけていきたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族にはホーム便りを郵送するほか、1年間の様子の写真を見やすくまとめた冊子を渡すなどしてホームでの暮らしがよくなるようわかしてもらっている。苦情等については、意見箱を設置し、意見が伝えやすい心がけている。家族が遠方の利用者が多いため、意見や苦情が出にくい状況である。利用者と家族の絆をつなぐためにも、家族会を作りたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣に民家や学校等の施設が無く、利用者も村民が1名しかいないという状況で、地域とのかかわりを持つことが難しい状況である。運営推進会議で要望を出したり、役場とのかかわりを密にしたりして、地域との連携を図れるよう働きかけている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームあんず

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すでに掲げた理念はあるが、これまでの理念を改正すべく、どんな理念がふさわしいか現在検討中である。	○	利用者、家族、職員にとってわかりやすく簡潔なものでよいので考えてほしい。また、その理念を入り口や見やすい場所に掲げて折に触れて見られるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや日々のサービスの中で、確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者のうち、村民が1名だけなので老人会等への参加が難しい。立地的に民家や学校などの施設と離れているので日常的な交流は難しい状況である。	○	立地条件等難しい面はあるが、今後も役場への働きかけを行いながら地域とのかかわりを深めていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、日頃のサービスを振り返るきっかけとしている。外部評価では普段気づきにくい様々な面で気づきが見られ、サービスの改善につなげることができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議を開催したところである。ホームの様子を知っていただくことができた。今後も定期的を開催していく予定である。	○	ホームの様子を積極的に伝えていくことで、ホームへの理解を深めてもらえるよう、今後も働きかけてほしい。ホームが希望する、地域の行事への参加を運営推進会議の場でさらに呼びかけてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場と密に連携を取れるよう、出向く機会を増やすなど努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりを発行し、金銭出納帳とともに家族に郵送している。利用者ごとに、1年分の写真を見やすくまとめた冊子を渡し、家族が利用者の暮らしぶりをよく知ることができるよう配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が遠方にいる利用者がほとんどで、家族等からの苦情などは今のところ無い。意見などが言いやすいよう、入り口に意見箱を設けている。	○	利用者と家族の絆をつなぐためにも家族会を作り、意見を伺う機会を設け、尚一層のサービス向上につなげてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動はないが、法人グループ内の異動は時折ある。異動の際は、慣れた職員と組み合わせるなど利用者が不安にならないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループ内で毎月研修を行っており、全ての職員が参加している。研修の内容も多岐にわたっており、サービス向上につなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が他のグループホームとの交流を行っている。また、法人グループ内の施設との交流も行い、情報交換をする中でサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得してから入居していただけるよう、見学の機会を設けている。必要に応じて回数も増減するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の心情を理解し、寄り添っていけるようなかわりを心がけている。利用者が得意とすることは積極的に教えてもらい、職員も助けてもらっているという意識を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で、利用者の思いを汲み取れるよう、言葉かけを行っている。家庭的なかかわりを大切にし、利用者が思いや意向を出しやすいように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的モニタリングを行い、利用者本人が生活する上での目標を聞き取り、計画の作成に取り入れられている。家族から得る利用者の特徴はとて大切なので、さらに家族の要望も聞き入れていきたいと思っている。	○	家族の要望をさらに取り入れられるよう、面会等の機会を大切にしていきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録以外にも申し送りノートを活用し、利用者の変化に対応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方にいる利用者がほとんどなので、医療機関への受診などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診の支援を行っている。また、事業所の理事長が医師のため、併設施設に医師と看護師が常駐しているので、往診も快く応じてくれる状態である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期には対応していないが、事業所の併設施設や病院と連携をとり、利用者の状況に応じて支援できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	羞恥心などの感情を大切に捉え、利用者の尊厳を守れるよう努めている。マナーについて事業所で研修を行い、意識の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて生活できるよう支援している。また、縫い物や大正琴など、利用者が好きなことをして過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は併設の施設の栄養士がたてており、個人的に苦手なものにも対応している。利用者全員で配膳をしており、配膳しやすいよう、細かい配慮がなされている。時には利用者とともに調理も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いせず、利用者の希望を大切にしながら入浴の支援を行っている。併設の施設には富士山を見渡せる大風呂があり、時にはみんなで入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫が得意な利用者には裁縫を手伝っていただいたり、家庭菜園を行い、収穫を楽しんでいただいたりしている。書道を取り入れたところ、はじめは躊躇していた方も楽しんで取り組めるようになった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲には緑も多く、気晴らしに散歩に出かけている。立地面での制限があり、買い物などを日常的にすることは難しい。	○	立地面の制限はあるが、戸外で気晴らしができるよう、さらに支援をしてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望が強い利用者があるため、特に見守りは大切にしている。寒冷地のため、冬期はやむを得ず施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設とともに防災訓練を行っている。役場や近くにある消防署にも協力を依頼し、災害時には連携が取れるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の中で苦手なものがある時は個人の好みに合わせるよう配慮している。食事量や水分量については十分摂れるよう、言葉かけや対応などで気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面の飾りは季節感を大切にし、職員と利用者で協力して作り上げている。共用空間のトイレのドアは車椅子でも出入りしやすいよう、配慮されたものとなっている。冬季はこたつスペースも作られ、くつろぎやすいよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は作りつけのものとなっており、洗面所も各部屋についている。利用者本人の手作りのもので居室を飾ったり、位牌をおいたりして利用者が居心地よく過ごせるようになっている。		